

1 日本語で自己紹介をする

POINT 1 会話を始めるとき、どうしますか。



POINT 1 のねらいは、自ら積極的に日本語でインターアクションを始めるにはどうしたらいいか考えてもらい、実際の場面で使う方法を学習することです。

1 こんなとき、どの人に、どう話しかけますか。

〔表現例〕

A：【男の人が食べ物を取ろうとしている】

例) お皿を持って、「料理、おいしそうですね。」「あの、何がおいしいですか。」など

B：【2人の女の人がお皿を持って立ち話をしている】

例) 「あの、何か食べますか。」「料理を取りに行きますか。」など

C：【男の人が飲み物を持って立っている】

例) 「あの、何を飲んでいるんですか。」「そのジュース、おいしいですか。」
「すみません、ジュースはどこにあるんですか。」など

D：【4人の男女がワイワイ話している（空席なし）】

例) 「あの、すみません。私も座ってもいいですか。」
「すみません。あの、イスを持ってきて、いっしょに話してもいいですか。」など

E：【2人の男女が座って話している（空席あり）】

例) 「この席、空いていますか。」「すみません、ここに座ってもいいですか。」
「あの、いっしょに話してもいいですか。」など

F：【3人の男女が立ち話をしている】

例) 「あの、いっしょに話してもいいですか。」「楽しそうですね。」など

- **A**、**B**、**C**のように、食べ物や飲み物などの見える手がかりがあれば、それをきっかけに話を始めるといいでしょう。
- **D**、**E**、**F**のように、特に手がかりがない場合は、「席があいているか」「会話に参加してもいいか」について尋ねると、輪に入りやすいです。
- 話しかけるときは、突然話しかけるのではなく、「あの」や「すみません」などのフィラーや前置きの表現を入れることが重要です。唐突に話を始めて、相手を驚かせてしまう学習者がいるので、事前に確認しておくといいでしょう。

② 相手が日本語で話さなかったら、どうしますか。

日本語で話したいとき、どのように言ったらいいか考えてもらいましょう。下記のような表現が考えられます。

〔表現例〕

- 「〈控えめに〉あの、すみません。日本語で話してもいいですか。もっと上手になりたいので……。」
- 【非英語圏の場合】「あ、すみません。英語がわからないので、日本語でもいいですか。」

- 授業で学習者から「日本人はなぜ英語で話したがるのか」と聞かれることがあります。日本人の対応は場面の状況や英語能力によって異なると思いますが、「相手は日本語がわからないかもしれない」と気をつけて英語を使う場合もあるでしょう。教科書のイラストを見て、「どうして直美さんは英語で話していると思いますか」などと質問し、クラスで話し合うといいでしょう。
- フィラーや前置き表現（例：「あの、すみません」など）を言わずに、「日本語をお願いします」「日本語で話したいです」と言うと、強い響きになり、相手を驚かせてしまう場合があります。「すみません」などの表現で相手に配慮を示し、丁寧に自分の意志を伝えるようにします。

※お詫びと訂正

イラストのセリフ部分（誤）「I'm Nomi Nagai」⇒（正）「I'm Naomi Nagai」

POINT 2 初めて会った人と、どんな話題について話しますか。

POINT 2 のねらいは、初対面場面の話題選択について注意を向け、次の2点について考えてもらうことです。



- どのような話題が適切か。
- 注意したほうがいい話題はどのようなものか。

① 初めて会った人に、次の話題について質問されました。あなたはどう思いますか。[] に A～D（あなたの気持ち）を書いてください。

- まず、個人で表の [] に A～D（あなたの気持ち）を書いてもらいます。次にペア・グループまたは全体で他の人がどのような回答になったか共有します。
- 全体で共有するとき、学習者から「C：変だなあ」「D：答えたくない」という回答があった項目については「なぜそう思いますか」などと質問し、学習者の考えを聞きます。これにより、自分と異なる他者の意見に気づき、話題選択に対する意識が高まります。
- ここでは「家族」「趣味」のように大きい項目を取り上げているため、質問内容によっては「B：大丈夫」になったり、「C：答えたくない」になったりする場合があります。例えば、「家族は何人ですか」という質問は「B：大丈夫」ですが、複雑な家族事情があるため、家族構成についての質問には「D：答えたくない」という場合などです。「家族」「宗教」「仕事、アルバイト」などは多様な質問が考えられる項目です。これらの項目については、さらに具体的な質問内容についても話し合うといいでしょう。

POINT 3 初めて会った人と楽しく会話を続けたいとき、どうしますか。

POINT 3 のねらいは、初対面場面の関係づくりに重要な話の続け方について考えてもらい、実際の場面で話を続ける方法を学習することです。

1 相手の話題に興味を持って、話を深める

- 学習者の言語によっては、相手の話を聞くととき、日本語のように「あいづち」を頻繁に使用しないこともあるようです。また、あいづちを練習すると、わざとらしくなってしまう場合があるので、〔会話例〕(p. 11) や〔あいづち〕(p. 208) などを使い、自然なあいづちを練習しましょう。
- 相手に質問をするとき、一方的に質問をするとインタビューのように不自然なインターアクションになってしまいます。自分の話も適度に入れながら、お互いにやり取りをするように注意しましょう。

練習2 相手の話を聞いて、話を深める練習をしましょう。

- **POINT 2** の話題選択と **POINT 3** の会話の続け方を意識して練習します。
- 話す時間 (3分) は目安とし、学習者のレベルによって調整してください。

2 自分のことについて詳しく話す

- 直美さんの話の場合、次のように話が進むことが考えられます。



わたし せんもん こくさいかんけい
私の専門は国際関係です。とてもおもしろいです。



- ①あなた：「そうですか。」 → 次の話題に移ってしまう
- ②あなた：関連した質問をする → 直美が質問に答える
例) 「国際関係の特にどんなことを勉強していますか。」
「どうしてその専門を選びましたか。」 など
- ③あなた：短く自分の話をする → すぐに次の話題に移ってしまう
例) 「私の専門は経済です。ちょっと難しいです。」

- 祐太さんの話の場合、次のように話が進むことが考えられます。



わたし せんもん こくさいかんけい ひがし ねきし けいざい べんきょう
私の専門は国際関係で、東アジアの歴史や経済について勉強
しています。子どものときから、歴史が大好きなので、いろ
いろな国の歴史が勉強できて、とてもおもしろいです。



- ①あなた：「そうですか。」 → 次の話題に移る
- ②あなた：関連した質問をする → 祐太が質問に答える
例) 「将来、東アジアに関係する仕事をしたいですか。」

「中国語や韓国語が話せますか。」

「特にどの時代の歴史を勉強していますか。」など

③あなた：少し詳しく自分の話をする →次の話題に移る

例：「私の専門は教育で、卒業したら先生になりたいと思っています。


子どもが大好きなので、小学校で教えたいです。」

- *①のように次の話題に移る場合、直美さんの話では、専門しか伝わりませんが、祐太さんの話では、祐太さんの専門、「国際関係」を専門にした理由、おもしろいと思う理由などが詳しく伝わります。
- *②のように関連した質問をする場合、直美さんのほうは基本的な質問のやり取りが多くなり、話が深まりにくいですが、祐太さんの話は情報量があるので、そこから話を深めたり、広げたりしやすくなります。
- *③のように自分の話をする場合、相手の発話量にあわせて発話することが多いです。直美さんの場合、短いやりとりが続き、話を深めることが難しくなります。また、祐太さんの話のように情報が多いと、例えば「私も日本の歴史が好きです」などのように共通点を見つけやすく、話を深めやすくなります。
- *1回のターンが長すぎると、一方的に話すことになるので注意しましょう。自分が話したあとに、「～さんは？」と相手の情報を聞くことも大切です。

3 共通点を見つける

- 今まで授業で行った「私のクラスのインターアクション」の実際の活動をみると、共通点が早く見つかったペア・グループのほうが、話が盛り上がり、すぐに打ち解けたり、そのあとの関係が築きやすくなったりする傾向にあります。
- 実際に体験し、振り返りを行ったときに、この部分の大切さに気づく学習者もいるので、フィードバックの際に、気づきを促すといいでしょう。

POINT 4 相手の言ったことがわからないとき、どうしたらいいですか。

 **POINT 4** のねらいは、相手の言ったことがわからないとき、どのように解決をするかを考えることです。問題を解決する方法の1つとして、聞き返しの方法を学習します。

相手の発話かわからないからといって聞き返しをしすぎると、インターアクションの妨げになります。最少の聞き返しで問題を解決するためには、適切な返答が得られるように聞き返しのしかたを工夫する必要があります。相手の言ったことの何がわからなかったのかによって、聞き返しのしかたを変えると、成功率が高まります。必要に応じて「聞き返し」(pp. 206～207)を参考にしてください。

1 話がぜんぜんわかりませんでした。

答え：cが一番適切

a：「は？」は学習者の言語によっては、よく使うあいづちの1つで、無意識に使っている場合が見

られる。日本語の初対面場面では失礼な印象を与えるので、気をつけるように指導する。

- b : 何がわからないのかが不明確で、適切な返答を得にくい。
- c : 「私の」以降が聞きとれていないことが相手に伝わり、適切な返答を得やすい。

2 文や言葉の一部が聞きとれませんでした。

答え：bが一番適切

- a : 何がわからないのかが不明確なので、適切な返答を得にくい。
- b : できるだけ聞きとれなかった部分を特定して聞き返すことで、次の相手の答えが明確になる。
- c : もう一度同じことを繰り返す場合、さらに聞き返しが必要になる可能性が高くなる。

3 言葉は聞きとれましたが、意味がわかりませんでした。

答え：bとcが適切

- a : 相手の言葉を繰り返す場合、相手に言葉の意味を理解していないことが伝わらず、適切な回答を得られない可能性が高い。
- b : 意味がわからないことが伝わり、適切な返答を得やすい。
- c : 意味がわからないことが伝わり、適切な返答を得やすい。

4 言葉の意味がはっきりわかりませんでした。

答え：bが一番適切

- a : 相手に聞き返しとして受け取られないので、不適切。
- b : 自分の解釈とともに聞き返すと適切な返答を得やすい。
- c : 推測で返答すると、あとで問題になる可能性があるので不適切。

5 相手の言ったことがわからないとき、あなたはどうしますか。

- ここでは、教科書で練習したように聞き返しをして言葉で伝えてもらうだけでなく、「絵を描いてもらう」「ジェスチャーを使ってもらう」「写真を見せてもらう」などの方法も考えられます。
- 場面や状況によって方法が異なるので、学習者がよく困る場面や状況を具体的に挙げて、考えてみるといいでしょう。
例) 具体的な場面：道に迷って、近くにいる人に道を聞く
- 問題（相手の言ったことがわからない）を軽減したり、起こらないようにするには、どうしたらよいかについて考えることも大切です。

練習2 聞き返しの練習をしましょう。

教師がクラスのニーズにあった練習問題を追加すると効果的です。例えば、地域方言、若者言葉、キャンパス言葉、職場の専門用語などを入れた練習にしたり、流行語を入れた練習にしたりすると楽しく練習ができます。

POINT 5 会話を終えたいとき、どう言いますか。

POINT 5 のねらいは、印象よく会話を終え、今後も関係を継続させるための表現を学習することです。

教科書の表現例を参考に、具体的に相手を想像して（例：同じ大学の趣味が同じ人／年上の地域の人・住まいが近い人）、いくつかの自分なりの締めの話し方を考えさせるといいでしょう。